

# 会 議 議 事 録

会議の 名 称	生命倫理委員会	日 時	平成26年12月18日(木)17:00~17:30
		場 所	大会議室
出席者	委員長：森村統括診療部長 委 員：澤田臨床研究部長、内炭救急部長、柳田診療部長、 竹内外部委員、松蔭外部委員、光木看護部長 (書記) 庶務係長		
議 題 及 び 討 議 事 項			
<b>【進行性筋ジストロフィー患者における首尾一貫感覚SOCに対する心理学的特徴の影響】</b> 受付番号：26-32 頁数：1頁～12頁 (申請者：小児科医長 白石 一浩) 申請者説明 入院中の進行性筋ジストロフィー患者を対象として、心理学特性について先行研究を参考に固執的な側面から検討する。固執的な側面の測定については、前頭葉の機能を反映するとされ神経心理学な固執傾向の検査であるウィスコンシンカードソーティングテスト(Wisconsin Card Sorting Test：WCST)および、人格検査のひとつであり学習された固執傾向を測定するクロニンジャーの人格尺度 (Temperament and Character Inventory：TCI)を用いる。 健常者を対照群として、神経心理学的な固執傾向があること、および神経心理学的固執と人格的固執がより強く関連することについて比較検討する。 また、一般的に神経心理学的な固執傾向については社会生活において不利な要因とみなされるが、神経科学におけるセイリアンス仮説概念と、進行性筋ジストロフィー患者の先行研究における心理学特性との類似性から、固執的傾向が適応過程として表れている可能性を考え得る。そこで病のある人の適応を捉えることに適しているSOC(Sense of Coherence)首尾一貫感覚尺度を用いる。 神経心理学のおよび人格的な固執的傾向が適応過程であり、その結果として首尾一貫感覚SOC(Sense of Coherence)尺度をより高めていることを重回帰分析により検討する。重回帰分析では、WCSTおよびTCIに加えて、WCSTに関連すると予想されるADL(MDFRS)と知能(改訂版長谷川式簡易知能評価スケール：HDS-R)の影響も検討する。			
審査内容： ・患者に対する説明書の表現について、もう少し平易なものとする。			
審査結果：上記意見はあったが、承認。			

**【神経難病患者をケアする看護師の患者と関わる際のストレスとコーピングの実態調査】**

受付番号：26-33 頁数：13～22頁

(申請者：看護師 加賀美 徳嗣)

申請者説明

昨年度、神経難病病棟に勤務する看護師120名を対象とした無記名式アンケート調査による仕事ストレスの調査を行った。その結果において、患者との「関わりの難しさ」がストレスとなっていたことに着目し、そのストレスの具体的な内容とそのようなストレスに対してどのような対処法を用いているのかの実態を把握したいと考えた。

調査方法については無記名式自記式質問紙法を用いる。実態を把握することによって、今後ストレスを対策する上での資料とし、スタッフに共有することでスタッフがストレスを対処する糸口にしたいと考えた。

倫理的配慮については、調査対象者には、研究の主旨、調査協力に対する自由意志の尊重、プライバシーの保護を依頼文書中で説明し、質問紙の回収をもって同意が得られたと判断する。

審査内容：特に問題なし。

審査結果：承認。